

多久市の特色ある教育「論語」



▲中央校の校内論語カルタ大会

今回は、6月市議会でも取り上げられた多久市の特色ある教育「多久学・論語教育」を紹介します。

論語は、世界中で最も多くの人に読まれてきた書物で、現代もなお広く読まれています。多久市では、子どもたちが楽しみながら論語に親しめる「論語カルタ」を制作し、市内全学校で「校内論語カルタ大会」などの論語教育を実践しています。平成6年から行っている「多久市論語カルタ大会」は今年度は、東部校会場で11月23日(水・祝)に22回目を開催します。

○子どもが奏でる美しい論語の響き！

「子曰く、学びて時にこれを習う、また説(よめ)ばしからずや」論語の冒頭に出てくる言葉です。多久市の子どもたちは、1年生から「論語カルタ」100枚の暗誦に挑戦し、湯島聖堂の斯文会主催の論語検定試験を受検します。3年生で初級、5年生で中級合格をめざします。全員が論語検定初級を取得し、中学部に進学しています。このように、子どもたちは何度も論語の素読を繰り返すことで、孔子の教えを自然に身につけ、恕の心を学んでいます。

○先生も多久学を勉強！

多久市勤務の先生は、全体の約85%が市外から通勤し、初めて多久市に赴任された先生も毎年20人ほどいます。そこで、赴任された先生に多久の自然、歴史、文化に触れる「教職員現地研修会」を毎年8月に実施しています。多久のことを知り、特色ある教育「多久学・論語教育」を推進してもらっています。

○主な見学地

東多久町：羽佐間水道、北ノ森古墳、通玄院
 太平庵酒蔵資料館
 南多久町：延寿寺、高野神社、妙覚寺
 北多久町：前田窯跡、番所関所跡
 多久町：専称寺、郷土資料館、多久聖廟
 西多久町：円通寺、川打家・森家住宅



▲高野神社を見学する先生(平成27年)

■問い合わせ

教育委員会 学校教育課

☎75-12227

温故創新

市長コラム Message for citizen

暗闇の先に見えた夜明けの光

被災地からの便り

市長 横尾 俊彦

熊本地震被災地に住む方からお手紙を頂きました。

「一年で一番華やかな季節を見失ってから間もなく三か月。ようやく自然の明るさに心を寄せられるようになって参りました。移動中に突然車が左右に激しく動き、携帯の異様な音で地震を認識し、やっとの思いで自宅に着いても激しい余震。その後は縦に横にと揺れながら、不安な夜を過ごされました。

十六日深夜の本震。自宅から飛び出したそうです。「絶え間なく避難を呼びかける町の放送、おもちゃのようにグラグラと揺れる家々。ゴースという不気味な地鳴り。逃げ惑う沢山の車...」。「ぼーっと震んだ月明りの下で私達ができたことは只々大地の怒りが収まることを願い家庭で身を寄せることでした」。

「恐怖が支配する暗闇の先に見えた夜明けの薄明りのなんと嬉しかったことか」。実体験の言葉だけに心に響きます。「それからの毎日は完全に地震に支配され」、唯一の特技「いつでもどこでも眠れる」が出来なくなりました。「そんな時に皆様方から頂きました励ましは、私たちの何よりの力となりました」。

「ゆっくりとゆっくりと日常が戻り、お蔭様でほぼ以前と変わらない生活になりました。余震は当初より回数も震度も随分落ち着き、街並みも人も少しずつ活気を取り戻しています」。

「地震はたくさんの爪痕を残しましたが、大切なことも教えてくれました。当たり前だと思っていたことが、決して当たり前ではなかったことを痛感しています」。「何よりたくさんの方々に支えられて今の私たちがいるということ。日常を楽しめるようになったのは皆様の励ましのおかげだと心から有難く思っています」とのことです。「人という字の成り立ちを改めて納得し感謝する毎日です」。改めて心に刻みたい言葉です。

八月、お盆の季節です。先祖を思い崇敬の念を尊ぶとともに、被災地の苦難を忘れず応援を続けます。熱中症にご用心を。